

「新世紀を築く大学の英知」を基本理念とする名古屋大学国際フォーラムが、2002年6月22日(土)より25日(火)まで、本学と学術交流協定を締結している24の海外主要大学、国際機関の学長、副学長、所長を招聘して、国際学術コンソーシアム(AC21)の創設と社会に寄与するための大学の使命と役割を討議するため、名古屋大学主催、愛知県、名古屋市後援により開催された。

23日の公開討論会は「21世紀における大学の使命と役割」をメインテーマのもと、名古屋大学豊田講堂にて日英同時通訳付で、佐々木雄太名古屋大学副総長の司会で、午前9時30分に開会された。学内外からの参加者はおよそ1,500名に達し、開会式では松尾稔名古屋大学総長の歓迎挨拶の後、小野元之文部科学事務次官、神田真秋愛知県知事より来賓の挨拶をいただいた。

基調講演は「21世紀における大学の役割」のタイトルでジェームス・デューダーシュタット ミシガン大学名誉学長、「大学に期待すること～ものづくりは人づくり～」と題して豊田章一郎トヨタ自動車株式会社名誉会長のお二人により10時から行われた。デューダーシュタット氏から、「21世紀の社会と組織にとって、教育を受けた人材は、最高の価値を有する資源となる。世界がより一層知識集約型になるにつれ、大学の社会的必要性が高まる。情報技術の爆発的な進化と従来の規制の緩和により、高等教育機関の大規模な構造改革が推進される可能性がある。産業としての高等教育の再構築、市場誘導の構造改革という展望は、大学の将来を考える上で有益な枠組みになる。」という大きな展望が示された。豊田氏からは、「トヨタの企業としての原点は、創業の精神(徹底した営業試験、徹底した現地現物主義、お客様第一、創造性の発揮)にあり、それをしっかりとモノづくりに生かしてきたから今日がある。モノ作りは人づくりとして開発されたトヨ

タ生産方式を、トヨタのグローバル経営に対応して世界に伝えていくことが不可欠である。大学に対し、国際競争力の強化、国を変える大学、社会のリーダーの人材育成を期待する。」と述べられた。参加者は、デューダーシュタット氏の高等教育産業の発想やトヨタのモノづくりへの執念に大きな驚きや感銘を受けた。

パネルディスカッションは、午後2時から奥野信宏名古屋大総長特別補佐の司会により、壇上の名古屋大学を含めた25大学、機関の代表者の紹介から始まった。松尾総長より、焦点を大学の使命である教育と研究に絞り、21世紀にいかなる人材が必要か、その背景は何か、研究とその成果に関する新しい地平の開拓を議論の課題として、自国社会と国際社会への貢献に区別して討議することが提案された。パネリストの5学長から話題提供がされた後、それ以外の大学・機関の代表者から各大学の現状や取り組みの説明、報告へのコメントが行われた。多くの賛同意見とともにグローバル化の中での多様性の重視が強調されたことが、印象的だった。会場からの意見やパネリストからのコメントがあり、最後に松尾総長が、討議結果を教育の理念目標、実現手段、研究の目標理念、実現手段に総括した。

翌24日、名古屋マリオットアソシアホテルで開かれた総会では、参加機関の連携組織としての国際学術コンソーシアム(AC21)の設立とその活動内容を4つのセッションに分けて討議し、出席者全員がコミュニケに署名して、本フォーラムは成功の内に終了した。



基調講演



パネルディスカッション